

注意事項

1. 試験問題の数は 75 問で解答時間は正味 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) 各問題には 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 斜視角の測定法はどれか。

1. アノマロスコープ
2. Frisby stereo test
3. Hirschberg 法
4. logMAR 値測定
5. PL 法

(例 2) 102 斜視角の測定法はどれか。2 つ選べ。

1. アノマロスコープ
2. Krimsky 法
3. Hirschberg 法
4. logMAR 値測定
5. PL 法

(例 1) の正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④	⑤
			↓		
101	①	②	●	④	⑤

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	→ ●
④	④
⑤	⑤

(例 2) の正解は「2」と「3」であるから答案用紙の ② と ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	①	②	③	④	⑤
			↓		
102	①	●	●	④	⑤

答案用紙②の場合、

102	102
①	①
②	●
③	→ ●
④	④
⑤	⑤

- (2) ア. (例 1) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。
- イ. (例 2) の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。







1 上眼窩裂を通過するのはどれか。2つ選べ。

1. 眼神経
2. 眼動脈
3. 顔面神経
4. 前庭神経
5. 外転神経

2 診療情報の開示が許される状況はどれか。

1. 同僚との噂話
2. 家族内での会話
3. 患者からの請求時
4. ソーシャルネットワーク
5. 患者名のみを秘匿しての開示

3 神経伝達物質でないのはどれか。

1. ドパミン
2. セロトニン
3. アドレナリン
4. アセチルコリン
5. テストステロン

4 平衡機能に**関与しない**のはどれか。

1. 眼 球
2. 小 脳
3. 中 耳
4. 耳石器
5. 三半規管

5 中心窩に存在するのはどれか。

1. 視細胞
2. 双極細胞
3. 水平細胞
4. アマクリン細胞
5. 網膜神経節細胞

6 ボツリヌス毒素の薬理作用はどれか。

1. 鎮痛作用
2. 局所麻酔作用
3. 抗てんかん作用
4. 交感神経遮断作用
5. 神経筋接合部伝達阻害作用

7 身体障害者認定基準において周辺視野の測定に用いられる視標はどれか。

1. V/4
2. I/4
3. I/3
4. I/2
5. I/1

8 小児の正常な発達で正しいのはどれか。

1. 6か月で追視をする。
2. 7か月で首がすわる。
3. 9か月で寝返りをうつ。
4. 11か月でつたい歩きをする。
5. 1歳でボールを蹴る。

9 自動体外式除細動器(AED)について正しいのはどれか。

1. 医師の指示が必要である。
2. 電極パッドは皮膚に密着させる。
3. 8歳未満の小児には使用できない。
4. 電気ショック中も胸骨圧迫は継続する。
5. 電気ショックを行えるのは1回のみである。

10 対光反射の中樞があるのはどれか。

1. 視 床
2. 中 脳
3. 橋
4. 小 脳
5. 延 髄

11 ERG が確定診断に有用なのはどれか。

1. 白内障
2. 緑内障
3. 視神経炎
4. 網膜色素変性
5. 虚血性視神経症

12 夜盲の原因とならないのはどれか。

1. 小口病
2. 白点状網膜症
3. 網膜色素変性
4. サルコイドーシス
5. ビタミン A 欠乏症

13 眼軸長について正しいのはどれか。

1. 超音波のBモードで測定する。
2. 正視眼の眼軸長の値は27.0~28.0 mmである。
3. 眼軸長は角膜の曲率半径で補正する必要がある。
4. 白内障が強い場合は超音波の方が光学式より適している。
5. 超音波では角膜前面から網膜色素上皮までの距離を測定している。

14 EOGに反映する機能をもつ細胞はどれか。

1. 視細胞
2. 双極細胞
3. 神経節細胞
4. アマクリン細胞
5. 網膜色素上皮細胞

15 定量的に全斜視角を検査できるのはどれか。

1. Krimsky 法
2. Hirschberg 法
3. Maddox 正切尺法
4. single prism cover test
5. alternate prism cover test

16 筋と支配神経の組合せで正しいのはどれか。

1. 瞳孔括約筋 ————— 三叉神経
2. 眼輪筋 ————— 動眼神経
3. 瞼板筋 ————— 交感神経
4. 下斜筋 ————— 滑車神経
5. 上斜筋 ————— 顔面神経

17 両眼ともに正視で調節力が1.0 Dの人に対し、近用部に2.00 Dを加入した二重焦点眼鏡を処方した。

この眼鏡で明視できる距離幅はどれか。2つ選べ。

1. 10 cm から 25 cm まで
2. 25 cm から 33 cm まで
3. 33 cm から 50 cm まで
4. 50 cm から 1 m まで
5. 1 m から無限遠まで

18 近視による固定内斜視について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 手術適応はない。
2. 共同性斜視である。
3. 屈折矯正で眼位が矯正される。
4. 眼軸長が極度に長いものに生じる。
5. 眼球が筋肉錐外へ脱臼するため生じる。

19 +10 D のレンズから 1 m の位置に置かれた蛍光灯の光を結像させる場合、レンズから像面までの距離はどれか。

1. 1 cm
2. 11 cm
3. 31 cm
4. 51 cm
5. 101 cm

20 羞明の原因となるのはどれか。

1. 回折
2. 色収差
3. 前方散乱
4. 球面収差
5. コマ収差

21 右眼上直筋のともむき筋はどれか。

1. 右眼上斜筋
2. 右眼下斜筋
3. 左眼上直筋
4. 左眼上斜筋
5. 左眼下斜筋

22 検査距離 40 cm で検影法を行い、90 度方向で +2.00 D、180 度で -2.00 D のレンズで中和した。

他覚的屈折値はどれか。

1. cyl-4.00 D 90°
2. cyl-4.00 D 180°
3. +2.00 D ⊖ cyl-4.00 D 90°
4. -0.50 D ⊖ cyl-4.00 D 90°
5. -2.00 D ⊖ cyl-4.00 D 90°

23 副腎皮質ステロイドの点眼薬および眼軟膏が禁忌となるのはどれか。

1. 春季カタル
2. 真菌性角膜潰瘍
3. 流行性角結膜炎
4. 非感染性ぶどう膜炎
5. アレルギー性結膜炎

24 +1.50 D ⊖ cyl-2.50 D 180° の屈折の眼にクロスシリンダーで乱視を検出する場合、クロスシリンダーを用いる位置として適切なのはどれか。

	前焦線	最小錯乱円	後焦線
1.	網膜上	+1.25 D	+2.50 D
2.	-1.00 D	網膜上	+1.00 D
3.	-1.00 D	+0.25 D	+1.50 D
4.	-1.25 D	網膜上	+1.25 D
5.	-2.50 D	-1.25 D	網膜上

25 右眼偏心固視で角膜反射の位置が瞳孔中心よりも内下方の場合、網膜上の偏心固視点の位置はどれか。

1. 下耳側
2. 下鼻側
3. 上耳側
4. 上鼻側
5. 乳頭上

26 アノマロスコープで正しいのはどれか。

1. 後天性の検査に適している。
2. 混色目盛0では赤色になる。
3. 色視標の下半分は混合色である。
4. 明順応装置を用いながら絶対等色値を求める。
5. 正常 Rayleigh 等色は混合目盛約 15、単色目盛約 40 である。

27 スペキュラーマイクロスコープで解析されないのはどれか。

1. 変動係数
2. 角膜内皮厚
3. 平均細胞密度
4. 平均細胞面積
5. 六角形細胞率

28 ERG 検査で結果に影響するのはどれか。2つ選べ。

1. 屈折
2. 体位
3. 暗順応
4. 角膜厚
5. 瞳孔径

29 院内感染する疾患と感染経路の組合せで誤っているのはどれか。

1. 肺結核 ————— 飛沫感染
2. B型肝炎 ————— 経口感染
3. 流行性角結膜炎 ————— 接触感染
4. インフルエンザ ————— 飛沫感染
5. ノロウイルス胃腸炎 ————— 経口感染

30 細隙灯顕微鏡で樹枝状角膜炎を観察するのに最も適した方法はどれか。

1. 強膜散乱法
2. 鏡面反射法
3. 虹彩反帰光線法
4. 広汎照明法
5. 直接焦点照明法

31 外眼部に異常がみられない疾患はどれか。

1. Coats 病
2. Crouzon 病
3. Mikulicz 症候群
4. Sturge-Weber 症候群
5. von Recklinghausen 病

32 遮閉試験で検出できるのはどれか。

1. 固視微動
2. 斜視角
3. 潜伏眼振
4. 対光反射
5. 不同視

33 右外転神経麻痺の検査で正しいのはどれか。

1. 右方視での眼位を測定する。
2. 第1偏位は右眼固視で測定する。
3. 4プリズム基底外方試験が陽性となる。
4. Bielschowsky 頭部傾斜試験が陽性となる。
5. 近見眼位での内方偏位が遠見眼位での内方偏位よりも大きい。

34 ジスチグミン臭化物について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 散瞳作用がある。
2. 白内障を誘発する。
3. 屈折検査に使用する。
4. 弱視治療に使用する。
5. 調節性内斜視の診断に使用する。

35 TNO stereo test と同じ両眼分離をするのはどれか。

1. 位相差ハプロスコープ
2. ニューアニセイコニアテスト
3. Bagolini 線条検査
4. Lang stereo test
5. Titmus stereo test

36 眼位異常のため来院した小児への対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 嫌がらない検査から行う。
2. 清潔を保つために白衣は脱がない。
3. 椅子に座ってから頭位を観察する。
4. 保護者の検査室への入室は固く断る。
5. できるだけ機嫌が良いときに検査を行う。

37 急性緑内障発作でみられない所見はどれか。

1. 縮 瞳
2. 眼 痛
3. 頭 痛
4. 浅前房
5. 眼圧上昇

38 急激な視力低下をきたす疾患はどれか。2つ選べ。

1. 視神経炎
2. 黄斑前膜
3. 後部硝子体剥離
4. 網膜中心動脈閉塞症
5. 中心性漿液性脈絡網膜症

39 網膜剥離を伴うのはどれか。2つ選べ。

1. 網膜色素変性
2. 正常眼圧緑内障
3. 増殖糖尿病網膜症
4. Vogt-小柳-原田病
5. 網膜中心動脈閉塞症

40 Vogt-小柳-原田病で見られるのはどれか。2つ選べ。

1. 前房蓄膿
2. 感音難聴
3. 口腔内アフタ
4. 夕焼け状眼底
5. 両側肺門部リンパ節腫脹

41 硝子体出血をきたすのはどれか。2つ選べ。

1. 網膜色素変性
2. 加齢黄斑変性
3. 単純糖尿病網膜症
4. 裂孔原性網膜剝離
5. 中心性漿液性脈絡網膜症

42 アトピー性皮膚炎に合併しないのはどれか。

1. 白内障
2. 円錐角膜
3. 網膜剝離
4. 網膜分離症
5. 春季カタル

43 円錐角膜の診断に有用でないのはどれか。

1. 検影法
2. 角膜形状解析
3. 細隙灯顕微鏡検査
4. オフサルモスコープ
5. スペキュラーマイクロスコープ

44 高血圧眼底にみられる変化はどれか。2つ選べ。

1. 白斑
2. 毛細血管瘤
3. 脈絡膜新生血管
4. 細動脈の狭細化
5. 視神経乳頭陥凹の拡大

45 糖尿病に伴う眼合併症でないのはどれか。

1. 虹彩炎
2. 調節障害
3. 睫毛乱生
4. 角膜びらん
5. 外眼筋麻痺

46 視覚障害者の誘導中の写真(別冊No. 1 ①～⑤)を別に示す。

誘導方法について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤



47 左上斜筋麻痺で回旋偏位が最大になる視方向はどれか。

1. 正面視
2. 右上方視
3. 右下方視
4. 左上方視
5. 左下方視

48 外方回旋斜視に対する手術はどれか。

1. 上斜筋移動
2. 外直筋上方移動
3. 下直筋鼻側移動
4. 上斜筋後部後転
5. 上直筋鼻側移動

- 49 斜視手術後の前眼部虚血に関係するのはどれか。
1. 眼窩上動脈
  2. 眼窩下動脈
  3. 前毛様動脈
  4. 短後毛様動脈
  5. 網膜中心動脈
- 50 右滑車神経麻痺で見られるのはどれか。2つ選べ。
1. 内方回旋偏位がある。
  2. 顎を下げて見ている。
  3. 首を右側に傾けて見ている。
  4. 右眼内上転が障害されている。
  5. 右への頭部傾斜試験で右眼が上転する。
- 51 低視力者で読字困難を訴える場合、最初に行うのはどれか。
1. 屈折異常の矯正
  2. 拡大読書器の紹介
  3. 卓上型拡大鏡の紹介
  4. タイポスコープの紹介
  5. 手持ち式拡大鏡の選定

52 A型内斜視に対して有効な術式はどれか。

1. 下斜筋前方移動
2. 外直筋短縮上方移動
3. 外直筋後転下方移動
4. 内直筋後転上方移動
5. 内直筋短縮下方移動

53 交代性上斜位の所見で正しいのはどれか。

1. 遮閉眼は下転する。
2. 遮閉眼は回旋を伴う。
3. 遮閉眼は素早く偏位する。
4. 遮閉により固視眼が上転する。
5. 上下ずれは左右眼で同じになる。

54 外眼筋の減弱術はどれか。2つ選べ。

1. ファーデン手術
2. Knapp 法
3. Jensen 法
4. Anderson 法
5. Hummelsheim 法

- 55 眼球運動障害がみられるのはどれか。
1. Adie 症候群
  2. Fisher 症候群
  3. Horner 症候群
  4. Stevens-Johnson 症候群
  5. Posner-Schlossman 症候群
- 56 遮閉具による健眼遮閉の副作用はどれか。2つ選べ。
1. 斜 視
  2. 皮膚炎
  3. 眼瞼下垂
  4. 調節障害
  5. 眼球運動障害
- 57 眼科で行えるロービジョンケアでないのはどれか。
1. 視機能評価
  2. 医学的管理
  3. 補助具の指導
  4. 補助具の選択
  5. 身体障害者手帳の認定

58 右眼の像が左眼の像の右上に見える複視を訴えている。

考えられる麻痺筋はどれか。2つ選べ。

1. 右眼上直筋
2. 右眼下斜筋
3. 右眼外直筋
4. 左眼下直筋
5. 左眼上斜筋

59 微小斜視弱視にみられるのはどれか。

1. 偏心視
2. 上斜視
3. 対応欠如
4. 周辺融像
5. 中心暗点

60 左方視よりも右方視で左上方偏位が大きくなるのはどれか。2つ選べ。

1. 右 Duane 症候群 I 型
2. 左 Brown 症候群
3. 右上直筋麻痺
4. 左上斜筋麻痺
5. 右下斜筋過動

- 61 生理的複視訓練で正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 顕性斜視を出現させて行う。
  2. 両眼中心窩に視標を投影させる。
  3. 大きい視標は中心窩付近の刺激に適する。
  4. Panum の融像感覚圏外に視標を提示する。
  5. 固視点より手前の視標は耳側網膜に投影される。
- 62 部分調節性内斜視の斜視角で正しいのはどれか。
1. 下方が上方よりも  $10\Delta$ 以上大きい。
  2. 遠見が近見よりも  $10\Delta$ 以上大きい。
  3. 遠視の完全矯正で  $10\Delta$ 以上残存する。
  4. 近見に  $+3.00\text{ D}$  負荷で遠見と等しい。
  5. 遠見に  $-3.00\text{ D}$  負荷で  $10\Delta$ 以上増大する。
- 63 偏心固視の原因となるのはどれか。2つ選べ。
1. 斜 視
  2. 不同視
  3.  $\gamma$  角異常
  4. 黄斑低形成
  5. 形態覚遮断

64 疾患と頭位異常の組合せで正しいのはどれか。

1. 両眼瞼下垂 ————— 顎下げ
2. 両上斜筋麻痺 ————— 顎上げ
3. 右上斜筋麻痺 ————— 左への頭部傾斜
4. 右外直筋麻痺 ————— 左への顔の回転
5. 左内直筋麻痺 ————— 左への顔の回転

65 上目づかいを主訴に来院した場合、考えられるのはどれか。2つ選べ。

1. A型内斜視
2. V型内斜視
3. A型外斜視
4. V型外斜視
5. 交代性上斜位

66 34歳の女性。起床時に突然の複視を自覚し来院した。5方向眼位と輻湊時の写真(別冊No. 2A)とHess赤緑試験結果(別冊No. 2B)とを別に示す。

この疾患の特徴で正しいのはどれか。

1. 輻湊不全を認める。
2. 健側眼に眼振を生じる。
3. 診断は動眼神経麻痺である。
4. 診断がつき次第手術を行う。
5. 瞳孔の対光・近見反応解離を認める。

別 冊

No. 2 A、B

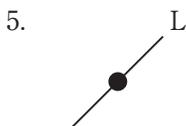
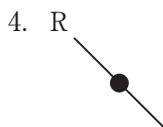
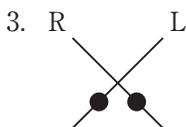
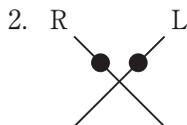
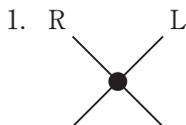
67 13歳の女子。先天白内障の術後からコンタクトレンズを装用してきたが、眼鏡の作成を希望して来院した。視力は右0.02(1.5×+16.00 D)、左0.03(1.5×+16.00 D)、瞳孔間距離55 mmである。交代プリズム遮閉試験(5 m)では8Δ基底外方である。

レンズの光学中心間距離[mm]はどれか。

1. 48
2. 51
3. 54
4. 57
5. 60

68 13歳の女子。眼位異常を主訴に来院した。視力は右0.3(0.3×+2.00 D)、左1.5(矯正不能)。斜視角は遠見、近見ともに15Δの恒常性外斜視である。網膜対応は正常である。

Bagolini 線条検査での見え方はどれか。2つ選べ。



69 5歳の女兒。眼位異常を主訴に来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)で、大型弱視鏡検査では、他覚的斜視角は $-6^{\circ}$ 、自覚的斜視角は $-3^{\circ}$ 、同時視(+)で、融像域は $-8^{\circ} \sim +9^{\circ}$ であった。両眼開放下、左眼遮閉および右眼遮閉の眼位(別冊No. 3)を別に示す。

この患児に対する対応で正しいのはどれか。

1. 経過観察
2. 輻湊訓練
3. 外直筋後転術
4. 抑制除去訓練
5. プリズム眼鏡処方

別 冊

No. 3

70 60歳の男性。2年前からの複視に対して、左眼に4Δ基底下方のプリズム眼鏡を処方されていた。この眼鏡装用で複視はなくなる。

眼位検査で正しいのはどれか。

1. 右内斜視
2. 右下斜視
3. 左下斜視
4. 左外斜視
5. 交代性上斜位

71 25歳の女性。読書中に視野の右方にチカチカと輝くちらつきを自覚した。ちらつきは次第に拡大し約30分で消失した。その後しばらく頭痛が続いた。

考えられるのはどれか。

1. 緑内障
2. 網膜裂孔
3. 閃輝暗点
4. 閃輝性硝子体融解
5. 網膜中心動脈閉塞症

72 62歳の女性。最近、右眼で人の顔を見るとゆがんで見えることに気付いた。新聞の文字も見づらくなったため来院した。視力は右0.1(0.2×-1.50D⊖cyl-0.75D90°)、左0.6(1.2×-1.00D⊖cyl-0.50D90°)であった。眼底写真(別冊No. 4A)と光干渉断層計(OCT)の結果(別冊No. 4B)とを別に示す。

考えられるのはどれか。

1. 黄斑前膜
2. 黄斑円孔
3. 加齢黄斑変性
4. 類嚢胞様黄斑浮腫
5. 中心性漿液性脈絡網膜症

別 冊

No. 4 A、B

73 64歳の女性。複視を主訴に来院した。3年前に交通外傷の既往がある。受傷直後は左眼が開瞼不能であったが、次第に開けられるようになってきたという。視力は右1.0(矯正不能)、左0.9(矯正不能)。瞳孔径は明所で右3mm、左5mmである。右眼固視時の9方向眼位写真(別冊No. 5)を別に示す。

所見として誤っているのはどれか。

1. 左眼瞼下垂
2. 左眼内転制限
3. 右下斜筋過動
4. 正面位での左下斜視
5. 右方視時の左眼瞼挙上

別 冊

No. 5

74 12歳の男児。眼位異常を主訴に来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)。眼位は、遠見、近見ともに15Δ間欠性外斜視である。外斜視時に複視はなく、輻湊近点は5cmである。TNO stereo testは60秒である。

この患児に最初に行う視能訓練はどれか。

1. 輻湊訓練
2. 凹レンズの使用
3. 生理的複視訓練
4. flashing method
5. fusion lock training

75 2歳6か月の女兒。1歳ころから時々眼が内に寄ることを主訴に来院した。森実式ドットカードでの視力は右0.4、左0.2。裸眼での眼位は、Krimsky法で30Δ内斜視、交代固視は可能であり、むき運動は正常である。アトロピン硫酸塩点眼による他覚的屈折値は右+9.00 D、左+9.50 Dであり、眼鏡を処方された。眼鏡装用下の眼位は10Δ内斜視である。

今後の視能矯正で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 交代遮閉訓練を行う。
2. 眼鏡装用で経過観察を行う。
3. 裸眼での内斜視角に対して斜視手術を行う。
4. 残余内斜視角に対してプリズム療法を行う。
5. 右眼にアトロピン硫酸塩を点眼し遮閉訓練を行う。

















